

若林小学校、池之上小学校の耐震再診断の速報値を踏まえた対応について

(付議の要旨)

学校等の耐震再診断において、速報値が事業者より報告された若林小学校と池之上小学校について、今後の対応を報告する。

1 主旨

現在、区施設の安全性を確保するため、耐震性能の再確認を実施している。対象施設は、第3次診断法を適用して診断結果を得た施設及び体育館棟については平成7、8年に耐震診断を行った学校等の計31施設となっている。

この対象施設の内、区立小中学校10校(校舎棟のみ)(第2クール)について、再診断における速報値が報告されたが、若林小学校と池之上小学校においては、I s 値が0.3を下回ったことから、当該2校について、それぞれ今後の対応を報告する。

2 若林小学校と池之上小学校の今後の対応について

今回の速報値では、校舎棟についてはI s 値が0.3を下回る学校が若林小学校と池之上小学校の2校であった。

そのため、速報値ではあるものの、避難経路の確保や避難訓練の徹底とともに、安全安心の確保という観点から、緊急対応として柱と壁の間にスリットを入れる工事を実施し、I s 値が0.3を上回るようにするための対応策を取ることにする。

詳細は、以下の通り。

(1) 若林小学校

① I s 値 ①-1、2、6棟 0.13

⑩-1、2、3棟 0.11

②スリット工事 12箇所 経費 約1,100万円

③その他 平成31年(2019年)5月に別敷地に新校舎が竣工し、夏休み終了までに移転する。

(2) 池之上小学校

① I s 値 ②-1、2、3、4棟 0.25

⑭棟 0.22

②スリット工事 88箇所 経費 約1,500万円

③その他 スリット工事後において、耐震補強工事(改修工事)での対応とするか、改築工事を行うかについては、3月末に提出される評定委員会の評定書を待って検討を行っていく。

3 今後のスケジュール（予定）

平成31年3月5日以降	議会、学校、学校運営委員会、保護者等への情報提供
3月末	池之上小学校の確定値を受け、緊急対応のスリット工事に加え、耐震補強工事（改修工事）を行うか、または、改築工事を行うかの検討に入る。

4 その他

スリット工事等の経費については、当面、本年度予算内で対応する。

【参考】

○ I s 値を踏まえた基本的な対応方針

(1) I s 値とは構造耐震指標のことをいい、地震力に対する建物の強度、靱性（じんせい：変形能力、粘り強さ）を考慮し、建築物の階ごとに算出されるものである。「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の告示により、震度6～7程度の規模の地震に対する I s 値の評価は以下のように定められている。

- ・ I s 値が0.6以上・・・倒壊又は崩壊する危険性が低い。
- ・ I s 値が0.3以上
0.6未満・・・倒壊又は崩壊する危険性がある。
- ・ I s 値が0.3未満・・・倒壊又は崩壊する危険性が高い。

(2) 区の基本的な対応方針

区では、基本的に I s 値が0.3以上の建物については、使用を継続しながらも速やかに耐震補強工事を実施している。

これに対し、 I s 値が0.3未満の建物については、施設の状況に応じて個別に対応の判断を行うことになる。

(3) 耐震再診断（第2クール）での速報値による I s 値の状況について（各校舎棟の最小値）

- ① 0.6以上・・・・・・・・・・0校
- ② 0.3以上0.6未満 ・ 8校（小学校7校、中学校1校）
- ③ 0.3未満・・・・・・・・・・2校（小学校2校）